

たきいNOW

 関西医科大学附属滝井病院

たきいNOWとは？

たきいNOWは、地域の皆様に滝井病院の「いま」をお伝えし、当院が提供する医療へのご理解を深めていただくことを主旨として発行しております。

コンテンツ

- ☆ ごあいさつ 副病院長 室田 卓之
- ☆ 脳卒中の急性期の治療について
- ☆ 尿路結石症と新しい治療
- ☆ 栄養管理部の活動



腎泌尿器外科の治療について



副病院長 室田 卓之

腎泌尿器外科は、すべての年齢層を対象とし、副腎・腎臓・尿管・膀胱・尿道・前立腺・精巣などの病気を扱う外科分野です。外科的治療を中心に治療を行う診療科ですが、腎盂腎炎、膀胱炎等の感染症の内科的治療も行う診療科でもあります。当科に受診される患者さんの要望に応えられる安全で安心できる医療を提供いたします。

滝井病院腎泌尿器外科は、泌尿器科領域の腫瘍（がん等）、尿路結石、尿路性器感染症、先天性疾患等の疾患の診断と治療です。当科の特徴は尿路生殖器悪性疾患（前立腺癌、膀胱癌、腎癌、腎盂尿管癌、精巣癌）を中心に、患者さんの病状により可能な限り低侵襲の治療を選択し安全な医療を提供できるよう努力しております。特に早期に発見される前立腺癌に対しての低侵襲治療として、腹腔鏡下小切開前立腺切除術（従来の手術より小さな創部での手術）、前立腺癌密封小線源永久挿入治療（体の内部から放射線を照射し癌細胞を破壊する放射線療法、小線源外来）を行っています。尿路結石の治療は、現在、体外衝撃波結石破碎装置ESWL、経尿道的尿路結石碎石術TUL（一昨年よりレーザー破碎装置を導入）、経皮的尿路結石破碎術PNLを導入し結石の位置や大きさにより最適な方法を選び短時間で治療をしています（結石外来）（本号3ページ参照）。

また、4月から女性泌尿器疾患（性器脱、尿失禁）を専門とする医師が女性泌尿器専門外来を開設しました。腎移植、男性機能障害等の疾患は、専門外来がある附属枚方病院と連携し、治療に当たっています。

最後に、排尿障害、血尿などの尿に関係する症状があれば、ホームドクターに相談して適切なアドバイスをいただき早めに治療を行って下さい。

脳卒中の急性期の治療について



脳神経外科・教授

岩瀬 正 顕



脳卒中は、発症から3時間以内に適切な処置を受けることで後遺症を軽減できる可能性があります。一方、症状の軽い患者さんが脳卒中と気づかなかつたり、救急要請を躊躇したりすることで、急性期の治療機会を逃していることが社会問題となっています。これを受けて、患者さんや家族に脳卒中を知っていただき、救急要請や救急医療機関の受診の抵抗感を緩和して、勇気を持って119番通報してもらう活動が行われています。(図1)

脳卒中が疑われたら 一刻も早く専門的病院へ



☎⇒“119番”または“専門的病院”へ

脳卒中では以下のような症状が**突然**起こります

- ▶ 片方の手足・顔半分の麻痺・しびれが起こる
(手足のみ、顔のみの場合もあります)
- ▶ ロレツが回らない、言葉が出ない、他人の言うことが理解できない
- ▶ 力はあるのに、立てない、歩けない、フラフラする
- ▶ 片方の目が見えない、物が二つに見える、視野の半分が欠ける
- ▶ 経験したことのない激しい頭痛がする



〈脳卒中急性期病院の電話番号〉

かかりつけ医に聞いておきましょう

監修：  社団法人
日本脳卒中協会 <http://jsa-web.org/>
The Japan Stroke Association

(図1)

● 脳卒中センターの開設について ●

急性期の脳卒中の救急搬送の増加が予想される中で、受け入れ医療機関の整備も急務となっており、滝井病院では脳卒中の急性期医療の受け入れを考慮し、脳卒中センターを立ち上げ患者さんの利便性を図りました。(平日、午前9時から午後5時まで)

脳卒中センターは、脳血管障害を扱う脳神経外科、神経内科、救命救急センターが集まり、リハビリテーション科、地域連携室の協力のもと、機能の集約化と診断・加療の効率化を図るため平成24年1月から開設されました。対象疾患は、脳梗塞、脳出血、くも膜下出血などです。新しい脳卒中センターの基準を取り入れ、脳梗塞の血栓溶解療法(t-PA標準治療・脳血管内治療)をおこないます。

救急車で運び込まれる脳卒中に対しては、高度救命救急センターを窓口として脳卒中担当医が対応するシステムが平成24年3月から施行されています。

外来受診を希望される患者さんには対しては従来通り、脳神経外科の外来で対応します。

地域の医療機関の先生方におかれましても、脳血管障害・脳神経疾患でお困りの時はお気軽にご相談ください。

〈相談先〉 関西医科大学附属滝井病院・脳神経外科受付 (06) 6992-1001 (代表)

〈担当医師〉 岩瀬 正顕

尿路結石症と新しい治療



腎泌尿器外科・助教
井上 貴昭

↑食生活での注意点↓

- ① 水分を十分に取る。
- ② 食事はバランス良く規則正しく摂る。
- ③ 動物性蛋白を摂り過ぎない。
- ④ カルシウムはしっかり摂る。
- ⑤ 脂肪は少なめに。
- ⑥ 野菜、海草、青身魚を適度に摂る。
- ⑦ ビタミンCは摂り過ぎない。
- ⑧ 塩分、砂糖は摂り過ぎない
(HP・『石があるって言われたら!?』から抜粋)

尿路(腎臓・尿管)結石症は腎泌尿器外科診療の中でも最も頻度の高い疾患の一つであり、しかも再発率が非常に高い疾患です。また救急疾患としても頻度が高く、若年者から高齢者まで幅広く罹患する可能性があります。一生のうちに一度は尿路結石に罹患する確率は男性では7人に一人、女性では15人に一人と10年前に比べ約60%も増加しています。また近年、その成因として生活習慣病・メタボリックシンドロームとの関連性も指摘されています。一方、尿路結石症は再発しやすい疾患であり、腎結石においてその再発率は治療後3年間で30%、5年間で45%とも言われています。腎結石の再発を繰り返すことによる腎機能障害のみならず、結石除去術による合併症も看過できません。さらにESWL(体外衝撃波尿路結石碎石術)時代になって再発率は上昇傾向にあることも指摘されています。



尿路結石の中でも、腎結石は無症状な場合が多く、小さく(<5mm)・症状がなければ経過観察されることが多いようです。しかし約4年の経過で約40%増大するとの報告もあり、無症状のまま放置されると症状が出現する頃にはかなり大きくなっていることも稀ではありません。また尿管に落ちた結石に対する治療を施行しても、腎臓に残った結石に対する治療はされず、そのまま経過観察されることも多く、患者さんにとっては再び訪れるかもしれない症状(突然の腰背部痛、血尿、嘔気など)に不安を持ったまま生活を送ることとなります。

近年、そのような腎結石を含めた全ての尿路に対する治療を可能にする手術方法である軟性尿管鏡を用いた経尿道的尿路結石碎石術(f-TUL)が注目を浴びてきています。この軟性尿管鏡とさらに細いレーザーファイバーを用いることにより患者さん自身、また腎臓に対しても負担が少なく尿管結石、さらに同時に腎結石も治療ができるようになりました。当施設では、このf-TULを昨年より導入し、現在までに50人の尿管・腎結石の患者さんを治療しています。さらに当施設では全身麻酔でこの手術を施行し、患者さんが眠っている間に手術を終えるようにしています。



<相談先> 関西医科大学附属滝井病院・腎泌尿器外科受付 (06) 6993-9548 (直通)

<担当医師> 井上 貴昭

『シリーズ』～病院スタッフの紹介～

【栄養管理部の活動】

当院は直営で管理栄養士8名、調理師28名で滝井病院の患者さんの栄養管理・給食の提供はもちろん大学生・職員の食堂を運営しています。

病院食は1回当たり約450食の食事を提供しており、一般食以外にも、疾患別・形態別に約200以上の食種に、アレルギーなどの個別対応を随時行っています。朝食ではパン・ご飯・粥食の選択に伴い副食もそれに合わせています。

献立作成では28日サイクルメニューを基本に季節の食材を取り入れ行事食を組み込み、出産後の方には、「お産食」・「お祝い膳」として特別メニューを提供し出産の喜びと共に味わっていただいています。また嚥下障害をお持ちの方には当院独自の5段階形態の嚥下障害食、緩和治療の一環として「さつき食」を管理栄養士・調理師共に現在も研究を重ねて提供しています。



栄養管理は医師・看護師・薬剤師・リハビリスタッフなどと連携し患者さん一人一人にあった適切な栄養補給を目指しています。NST委員会では2006年より多職種による全病棟の回診を実施、褥瘡回診は週に1回参加、肝臓病センターの一員としては随時相談に応じ教室の運営にも参加し、地域医療支援病院として地域の医療機関と連携した栄養指導体制を整え、従来より実施していた慢性疾患に対する栄養指導に加え、2010年より“健康ステップアップ”に取り組んでいます。昨年10月から形成外科「スキンケア外来」では健康科学センターともコラボし「肌別診断のお悩み」相談を実施しています。



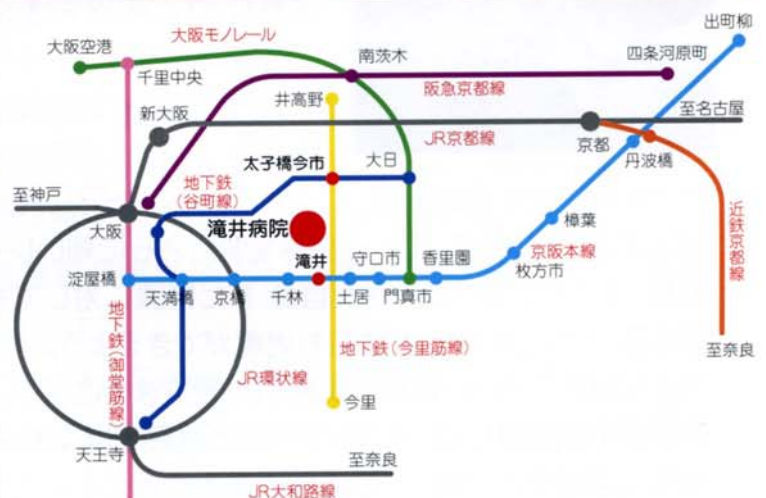
栄養管理部

西辻 知恵美・細見 恭子

アクセスマップ



- ・京阪電車「滝井駅」徒歩3分
- ・地下鉄谷町線・今里筋線「太子橋今市駅」(2番出口)徒歩6分



関西医科大学附属滝井病院

〒570-8507 大阪府守口市文園町10番15号

TEL 06-6992-1001 (代)

HP <http://www.kmu.ac.jp/takii>